

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立中道中学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	①全授業者 ②各学年団	①学習集団づくりの工夫 ②自主学習の促進	①今年度末 ②2学期中	①生徒どうしがつながり、高め合うための集団になるように、教え合いや学び合いのできるグループ作り、席の配置を考える。授業の中で話し合いをしたり、意見を交換し合ったりする場面を意図的に入れながら、分からないときには素直に「分からない」と言える集団作りをしていく。 ②1年生はすでに自主学習ノートの取組を始めているが、全学年とも生徒が自由にとって学習できる自主学習プリントを各学年のフロアに準備しておき、生徒に声かけをする。	一定以上の学力のある生徒は、より向上心をもって学びに向かい、低学力の生徒も分かれようとする努力をこつこつと続ける。「授業がわかる」と肯定的な回答が85%以上、「自主的に家庭学習に取り組む生徒が70%以上」。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	主幹→学年主任 →学級担任	家庭生活実態調査(家庭学習時間とメディアの使用時間)の集計結果を各学年の指導に生かす。	2学期末と今年度末	グラフにして示す。他学年や前年度との比較をして、次の目標値を設定する。メディアの使用に関するルールを各生徒に考えさせる取組をする。	自分自身の生活リズムを見直しながら、より有意義な家庭生活ができるように考えることができる。 テスト週間ではない期間で、目標の家庭学習時間以上の割合が50%以上。 テスト週間はメディアの1時間未満利用の割合が30%以上。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>○3年生 国語、数学、英語すべての教科において、県平均や全国平均よりも平均正答率が3～5ポイント下回っている。しかし、英語については昨年度の県学力調査の時と比べて、3ポイント差が縮まっている。国語は「読むこと」、「話すこと・聞くこと」が低い。数学は「数と式」が高く、「図形」「関数」「資料の活用」が低い。英語は「聞くこと」が低い。</p> <p>○2年生 国語と数学の正答率は昨年度はどちらも県より3～5ポイント下回っていたが、今年はほぼ県と同程度。英語は県より5ポイント下回っている。領域別では、国語の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、数学の「図形、関数」、英語の「書くこと」が低い。また国語の「書くこと」、数学の「資料の活用」が高い。</p> <p>○1年生 国語の正答率は県と同程度、数学は2ポイント下回っている。領域別では、国語の「書くこと」、「数学の量と測定、図形」が低い。また、国語の「話すこと、聞くこと」が高い。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○「あいさつをすること」「決まった時間に寝たり起きたりすること」「地域の行事に参加すること」「規則を守ること」は、肯定的な回答の生徒の割合が県・全国平均より高い。</p> <p>○「将来の目標を持っている」「自分には良いところがある」は、肯定的な回答の生徒の割合が県より低い。</p> <p>○家庭学習時間(1時間以上)の割合は、3年生が73.1%、2年生が81.0%で、いずれも県、全国平均よりも高い。1年生は56.3%で県平均より低い。</p> <p>○テレビ(携帯・スマホ)ゲームの時間(2時間以上)と携帯電話・スマホの使用時間(2時間以上)の割合は、県平均より高い。</p> <p>○読書時間と自己肯定感については、県平均よりやや低い。</p>
---	--

成果

<p>○朝読書の取組を続けており、朝から落ち着いた学習環境を整えている。</p> <p>○授業の中で目標(めあて)提示をし、生徒がその目標達成に向けて授業を大切に受けている。</p> <p>○授業規律の徹底をしており、どの学年も時間を守り、前向きに授業に取り組む雰囲気ができている。</p> <p>○校内研修を通して、生徒どうしをつながりを深める授業づくりを意識しているため、お互いに教え合ったり話し合いをしたりする場面が自然に増えている。</p> <p>○学校行事の中で生徒自身に達成感をもたせる取組を通して、自己肯定感を高める工夫をしている。</p> <p>○ミニ学習(帰りの会前の時間)の取組を続けており、基礎・基本の徹底を図っている。</p>

課題

<p>○基礎的な英語の単語や数学の技能などは、下学年で習ったことを忘れてしまっていることが多いので、繰り返して学習することが必要である。</p> <p>○複雑な設問(説明文が長い、図や表などを読み取るなど)や記述式で解答する問題については、問題の意図を読み取れていない生徒が多い。</p> <p>○選択式、短答式の問題と比べて、記述式の問題については無解答率が高い。</p> <p>○テスト週間には目標時間以上家庭学習をする生徒が80%以上いるが、そうでない時期には40%程度である。(家庭学習の目標時間 1年生80分 2年生100分 3年生120分 学校独自の調査)</p> <p>○メディア(ゲーム、TV、スマホなど)の利用は、テスト週間もそうでない時期も、2時間以上の生徒の割合が40%程度である。(学校独自の調査)(1年生は県平均より低く、2年生は県平均より高い)</p>
--

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
基礎学力の定着	今年度2学期末、3学期末	5教科(特に数学)の基礎問題の正答率を75%以上にする。(全学年)	問題データベースやTチャレ等からプリントを作成し、ミニ学習の時間に取り組む。数学では確認テストを実施し、正答率を確認する。各学年ごとに向上させたい力に応じた自主学習プリントを準備し、取り組ませる。					
家庭学習の定着と充実	今年度末	テスト週間ではない期間で、目標の家庭学習時間以上の割合を50%以上にする。テスト週間はメディアの1時間未満利用の生徒の割合を30%以上にする。(現在は約20%)(全学年)	生活実態調査を10月、11月、1月、2月に行い、平日の家庭学習時間とメディア利用時間を調査し、確認する。					
生徒どうしがつながり、互いに高め合う授業づくりのための授業改善	今年度末	わかる授業づくりと、生徒どうしが互いに教え合ったり意見を交換し合ったりする授業づくりをめざして、「中道中」にあった学びのスタイルをつくる。授業アンケートなどで検証する。(全教職員)	OJTチームを中心とした校内研修で授業研究や授業公開をする。若手を中心に全職員の指導力・授業力を高め、個に応じた指導を通して、学習意欲を向上させる。					

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標のある程度達成できた(60%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上60%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組

<p>○中道中ブロック「あたり前」の徹底(チャイムスタートの徹底、規律ある授業づくり、落ち着いた学習できる教室環境づくり)に取り組む。</p> <p>○中学校区で授業公開並びに児童生徒の情報交換を行い、今後の指導に生かす。</p> <p>○中学校定期テスト期間中にテレビやゲーム、スマホ等の使用制限の取り組み(ノーマedia週間)を行う。</p>

保護者・地域へ理解・協力を求めること

<p>○「家庭学習のスタンダード」を年度始めに家庭に配付する。さらに学級懇談や学期末の個人懇談などで、家庭学習の充実を呼びかける。</p> <p>○「学習の手引き」を年度始めに配付し、各学年に応じた指導をした後家庭に持ち帰らせ、保護者への理解も促す。また学級懇談や学期末の個人懇談などで、家庭学習の充実を呼びかける。</p> <p>○ノーマedia週間やチャレンジハッピーデーの取り組みを、チラシの配付や呼びかけによりテスト週間中に家庭の協力を得て行う。</p> <p>○あいさつ運動(交通指導とあわせて、毎日の登下校時及び月に2度ほど地域に出て)を地域や保護者ととも推進する。</p>
